



No. 239
October 2026

長岡技術科学大学は、開学50周年を迎えました



広報誌「VOS」の歩み



長岡技術科学大学長
鎌土 重晴 Kamado Shigeharu

本学は令和8年10月、開学50周年の節目を迎えました。50年にわたり本学を温かく支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。
この記念号では、開学当初から本学の「今」を届けてきた広報誌「VOS」の歩みとともに、半世紀の歴史を振り返ります。誌名に掲げられた「Vitality (活力)」「Originality (独創性)」「Services (奉仕)」の精神。ページをめくれば、時代を先駆ける研究に挑む教員と、その背中を追いつ長岡の地で逞しく学ぶ学生たちに秘められた熱意が鮮やかによみがえります。
これまでの歩みを誇りに、次の50年も、私たちは地域や社会とともに未来を切り拓く実践的な技術者を育成してまいります。

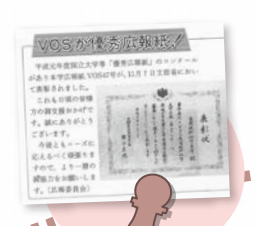
No.1 (1978年12月発行)
広報誌「VOS」創刊
第1回入学式が行われた1978年に、第1号が創刊されました。第1号から現在に至るまで、本学の特色である「実務訓練」の現場や最先端の研究、日々の授業の様子を伝え続けています。

Start



No.9 (1980年10月発行)
長岡まつり大民踊流しに参加
1979年から参加している「長岡まつり大民踊流し」。翌年10月に発行された9号には、参加した学生たちの姿が記録されています。今年度も参加した、大民踊流しの様子は8ページで詳しく紹介しています！

No.49 (1990年1月発行)
平成元年度『優秀広報紙』を受賞
国立大学等の広報紙コンクールにて、本学の広報誌「VOS」47号が見事表彰されました！



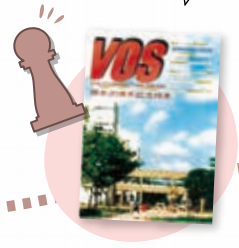
No.33 (1986年10月号)
開学10周年記念特集！

No.74 (1995年1月発行)
「地域に開かれた大学」を目指す座談会

当時の長岡市長、長岡商工会議所会頭、長岡造形大学長、本学学長が一堂に会した豪華企画！「地域に開かれた大学」の未来像を熱く語り合い、長岡の街とともに歩む本学の姿を示した一号です。



No.83 (1996年10月発行)
開学20周年記念特集！



No.86 (1997年4月発行)
「ギダイダーNagaoka」初優勝！
1997年3月に開催されたアイデア対決ロボットコンテスト大学部門国内大会において、本学機械系選抜チームが初優勝を勝ち取りました。今年度のロボコンの活動については、15ページで紹介しています！

左：No.124 (2004年10月発行)
右：No.130 (2005年11月発行)
中越地震と復興の歩み
地震直後の被災報告と支援への感謝を伝える124号、発生から1年の歩みと未来を描いた130号。全国からの温かいご支援と教職員・学生で試練を乗り越え、地域とともに力強く立ち上がった歴史の1ページです。



No.136 (2006年11月発行)
開学30周年記念特集！



No.207 (2018年10月発行)
「高専連携」特集
本学の大きな特徴である「高専連携」を大特集！本学の取り組みや高専教員として活躍する卒業生の声を掲載。在学生が自身の出身高専を紹介する連載企画「私のふるさと高専紀行と技大への道」は、10ページに掲載しています！



No.170 (2012年7月発行)
技術で未来を切り拓く！電力エネルギー供給の多様化へ
東日本大震災とそれに続く原発事故で、国内における電力エネルギー供給に大きな関心が集まりました。震災からの復興が進行していく中で、本学の研究者が行っている、電力エネルギー供給の多様化に向けての取り組みを紹介しました。各技術の特徴と将来展望を提示し、社会の課題解決に向けて読者とともに未来のエネルギーのあり方を考える、意義深い特集となりました。

No.212 (2020年1月号)
「SDGsハブ大学」の取り組み
国連アカデミック・インパクト SDGsのゴール9 ハブ大学である本学の取り組みを紹介しました！



No.214・215合併号 (2020年10月発行)
コロナ禍における本学の挑戦
学内での感染防止対策やリモート授業の様子を紹介。誰もが手探りの状況下でも、技術と工夫を凝らして教育・研究環境を守り抜き、「新しい生活様式」へと適応していった本学の歩みを記録しています。



No.239号 (2026年10月発行)
祝!開学50周年
広報誌「VOS」の歴史を軸にこれまでの半世紀を本ページで振り返りました。次ページからは、変貌を遂げてきたキャンパスの姿、第2期生から今も続く茶道部の「初代部長×現役員座談会」、開学当初から参加している長岡まつり大民踊流しの様子などを紹介しています。



広報誌「VOS」バックナンバーはこちらからご確認ください！
(127号からの掲載です)



写真でたどる キャンパスの変化

広報誌「VOS」には、その時代のキャンパスの風景が数多く記録されています。当時の紙面に掲載された写真と現在の様子を比較しながら、50年の歩みを紹介します。

サクラ通り

No.86 (1997年4月発行)

開学10周年記念碑

No.34 (1987年1月発行)

新講義棟

No.69 (1994年1月発行)

附属図書館

No.76 (1995年4月発行) No.120 (2004年3月発行)

機械・建設棟

No.51 (1990年4月発行)

第一食堂

No.76 (1995年4月発行)

B講義室

No.54 (1991年1月号)

食堂を含む福利棟は、**現在増改築中**です。
新オープンをお楽しみに！



今秋、全面リニューアル
オープン予定です！

A講義室

No.78 (1995年10月発行)

椅子の色が、
赤から青に…！

中庭

No.90 (1998年3月発行)

No.106 (2001年4月発行)

No.5 (1979年10月発行)

茶道部 初代部長×現部員 座談会

座談会終了後も、
持参いただいた当時の資料を囲み、
和やかな交流の時間が続きました。

上村：本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。広報誌「VOS」専門部会長の上村です。本学開学50周年を記念しまして、この広報誌「VOS」で、歴史ある茶道部の座談会を企画しました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

・茶道部が活動している和室について

熊倉：茶道部は創部当時からこの部屋を使っていました。
上村：和室はそんな昔からあったんですか？
熊倉：はい、ありました。福利施設棟だけは開学早々に完成していました。研究棟はなかなかできなかったですが。
上村：では、茶道部の創部前からこの和室はあったんですね。
熊倉：はい。和室はありましたが、当初は茶道の道具は少なかったんで、卒業前に自分が作った茶碗や茶杓とかは卒業後も残していくという伝統がありましたね。そうでなければ、買って置いていくとか。
上村：後輩のために、ということですね。

・50年前の長岡技術科学大学

上村：50年前の大学の周りの様子はどんな感じでしたか。
熊倉：当時はまさに工事現場のようでしたな。舗装してない道路もありましたし、研究実験棟も建設途中でした。それに、私は2期生でしたから、一番上の学年でも学部4年生。修士課程もまだできていない時期でした。そうした環境の中で一生懸命勉強したり、クラブ活動をやったりしていました。みんな開拓精神にあふれていて、それはそれでとても楽しかったです。クラブ活動も同じで、当時はまだ茶道部がなかったんで、自分たちで新たに立ち上げました。

・茶道部設立エピソード

上村：茶道部創設の際は、部員を募る必要がありますよね。大体何人くらいだったんですか？
熊倉：(当時の資料を取り出す)これが創設時の部員名簿です。
野方：出身高専も書いてあるんですね。
上村：部員は全員で14人いらっしゃったんですね。
熊倉：実は面白いことに、この14人以外に日赤看護学校の学生も混ざっているんですよ。
野方：ええ！？別の学校の学生も入部してたんですか？
熊倉：させたんです(笑)。当時は大学内に女子学生がほとんどおらず、学生自体も少なかったものですから、技大祭を盛り上げるために、技大祭実行委員会が予算

を組んでマイクロバスをチャーターし、日赤病院や他の病院にある看護学校まで送り迎えするといったこともしていました。

上村：今でいうマッチングアプリですね。50年前のマッチングアプリ。

熊倉：そうですね。他の学校との交流も技大祭の方針にあり、「フィリングカップ」le5対5]のような企画が技大祭で行われていました。そうした交流の中で、日赤病院の看護学校には茶道部がないと知り、お誘いして一緒に始めたのが、この看護学校の学生さんでした。

上村：なるほど。

熊倉：当時、和室での活動は週1回、多分土曜日だったと記憶しています。そして平日は水曜日に茶道の先生のところへ習いに伺っていました。当時はあまり車が普及してなかったんで、相乗りしたりとか、バスで行ったりしていましたね。あの先生が水曜日に長岡高専の茶道部を、金曜日にお弟子さん達を教えているという伝説は今も続いているようですね。

上村：学生さんたちも、そういう経緯で活動曜日が決まっていたんだって初めて知ったんじゃないかな。

山口：初めて知りました。

野方：授業との調整で水曜日に決めたのかなって思ってた

んですけど、違ったんですね。

熊倉：どの部もそうでしたが、当時は大学の教職員が学生にクラブ活動を優先させようという雰囲気がありました。大学の周りが工事現場みたいな状況でしたから、クラブ活動でモチベーション上げてもらいたいという意向があったのだと思います。

上村：現在とは随分違って興味深いです。

熊倉：(手元の資料を取り出しながら)今日は、茶道部ができたころの話ということで、この「茶道入門」という資料を持ってきました。1979年の部の設立時に、他の部員のために私が手作りしたものです。

野方：初めて拝見しました。この資料いただいてもよろしいですか？

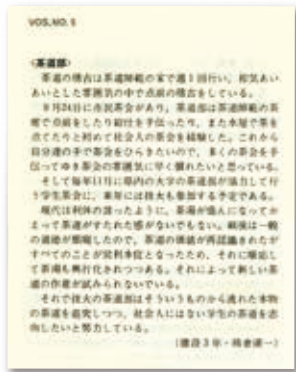
熊倉：ぜひ受け取ってください。最初に茶道とは何か、そして私たちが嗜む石州流の特徴や他流派との違いなどをまとめています。あとは、道具の名前がまず分からないといけないので、手書きで絵も添えました。

野方：ええっ、この絵も熊倉さんが描かれたのですか？とても上手ですね。

熊倉：ありがとうございます。これに先ほどの名簿を添えて、看護学校の学生さんも含め、部員に配っていました。

上村：これが最初の部活動マニュアルですね。

熊倉：そうですね。ゼロからのスタートでしたから、このような資料がないと部をまとめていけなかったんです。



No.5(1979年10月発行)



この茶碗は、当時茶道部で
佐渡に旅行した際に
作ったものです。

現部長から初代部長へ
おもてなし

Round-table talk
Member



茶道部初代部長
工学部建設工学課程 2期生
(1983年3月修士修了)
第2代 同窓会会長

熊倉 清一
Kumakura Seichi



茶道部現部員
環境社会基盤工学分野修士2年

森 優斗
Mori Yuto



茶道部現部長
物質生物工学分野学部4年

野方 響
Nogata Hibiki



茶道部現部員
物質生物工学分野学部4年

山口 千尋
Yamaguchi Chihiro



広報誌「VOS」
専門部会長

上村 直史
Kamimura Naofumi

・技大祭での茶道部

熊倉：第1回技大祭は、1981年でした。「技大祭」という名前、実は私が決めたんですよ。

一同：えー！

熊倉：クラブ連絡会議で、「学園祭の名前を募集します」って言われた時、最初に手を挙げたもの勝ちだと思いついて、真っ先に「技大祭」と提案したら、見事に採用されました。(当時のパンフレットを取り出しながら)その時の、パンフレットの表紙です。ここに「茶道部第二回技大茶会」と書いてあります。「10月3日午後1時から午後6時」、「和室にて」、ここですね。お茶代が当時250円でした。ここに掲載されている写真は、多分第1回の技大茶会の時のもの。第2回目の時はちょうど技大祭と重なったので、技大祭の企画として実施しました。

山口：開催時間が午後1時から午後6時と、遅い時間だったんですね。10時ですとか、技大祭の始まりと同時に部の企画も開始するイメージがあります。

森：たいてい午前10時～午後4時くらいに開催しますよね。

熊倉：私は技大祭実行委員も兼任していて、「ミス長岡コンテスト」も担当していました。午前中はそういったイベントで大忙しだったので、茶会は午後から始めることになりました。

上村：そうだったんですね。

・現在の茶道部について

上村：ここからは現在の茶道部についてお聞きます。現部長の野方さん、部員数や日頃の活動の様子について教えてくださいませんか？

野方：現在は部員が25人在籍しています。

熊倉：多いですね。

野方：毎週水曜日に茶道の先生のところにお稽古に行っています。部員の中には、和室で自主練する人もいたり、ただおしゃべりする人もいたり、アットホームな雰囲気です。活動していると思います。主要なお茶会が七夕茶会と技大祭のお茶会、冬に学生茶会と3月の卒

業茶会の4つがあります。

熊倉：卒業茶会は私の時代はありませんでした。七夕茶会が始まったのは、10年前くらいからですよ。

山口：そうですね。OBの方に天の川が描かれた棗(なつめ。抹茶を入れておく容器のこと)を購入いただいたことをきっかけに、「この棗を使ってお茶会しよう」と始まったと伺っています。

熊倉：先ほどお話ししましたように、卒業前に自分で作るか購入するかして道具を部に残していくということがしきたりといいますが、伝統になっていまして、その中にその棗があったということですね。7月は英語のテストなどがありますよね？

山口：そうですね。TOEICが第1週にあります。

熊倉：だから7月7日ではなくて中旬に開催しているのですか？

山口：そうですね。後半になると、今度は期末テストと重なってしまいますので。

上村：忙しい時期ではありますが、息抜きにちょうどいいんじゃないでしょうか。

熊倉：茶会当日は卒業生も来るんですよ。

山口：はい。

森：卒業生に案内状を出したり、茶道に関係する先生方ですとか、大学・高校の茶道部、道具やお菓子を買うお店などにも案内状を出していますね。

上村：なるほど。

熊倉：私のところにも届きますが、わざわざ新幹線に乗って来て参加する卒業生もいるんですよ。

上村：何年経っても部の卒業生と繋がりがあっていいですね。お茶会を開く時に、駆けつけてくれるみたいなの。

・茶道部として大切にしていること

上村：熊倉さんが部活動のマニュアルを作られたり、茶道とは何かという原点からスタートした部の活動が、今に繋がっているのかなと思います。茶道部として、大切にしていることや共通する思いなどありますか？

熊倉：私は当時、とにかく部員数を増やしたいという気持ちがありました。



技大 茶道部第二回
技大茶会



天の川が描かれた棗

50年のつながり

長岡技大 × 長岡まつり大民踊流し

広報誌「VOS」を振り返ると、開学間もない頃から長岡まつり大民踊流しに参加する本学の姿が記録されています。地域の皆様と共に歩んできた50年。今年も、地域の皆様と共に夏のひと時を楽しみました。



No.9(1980年10月発行)

1979(昭和54)年から参加している長岡まつり大民踊流し。翌1980年(昭和55)年には、美術部デザインによる本学オリジナルの浴衣が作られ、**約100名**で参加しました。同年10月発行の広報誌「VOS」9号には、オリジナル浴衣に身を包んで踊る学生たちの姿が記録されています。



No.21(1983年10月発行)



No.53(1990年10月発行)



No.93(1998年10月発行)



今年も2026年8月1日(土)に長岡まつり大民踊流しが開催され、本学の学生・教職員が参加しました。

当日は **44団体・約3,200名** の踊り手が参加し、会場となった長岡駅前の大手通りは大きな熱気に包まれました。本学からは鎌土学長をはじめ、留学生を含む学生・教職員の総勢約70名が参加。「長岡甚句」と「大花火音頭」を賑やかに踊り、地域市民との交流を深めました。



2026年8月1日
今年の様子

開学50周年記念花火を 打ち上げました!!

長岡技術科学大学の開学50周年を記念し、8月2日(日)に開催された長岡まつり大花火大会において、「開学50周年記念花火」の打上げを行いました。
打ち上げた花火は下記のとおりです。

名称:長岡とともに技大、感謝の50年

花火の種類:超大型スターマイン

打上げスポンサー名:長岡技術科学大学開学50周年記念花火協賛者一同

ご協賛件数:209件

花火の名称は、50周年の節目を飾るにふさわしいものとなるよう、卒業生・修了生、現・旧教職員 **約500名** による投票により決定いたしました。

当日は天候にも恵まれ、華やかな打上げを実現することができました。長岡の夜空を彩る大輪の花火を通じ、本学の50年間の歩みと皆様への感謝の思いをお届けできておりましたら幸いです。また、観覧された皆様にとって心に残る特別な時間となっていれば非常に嬉しく思います。

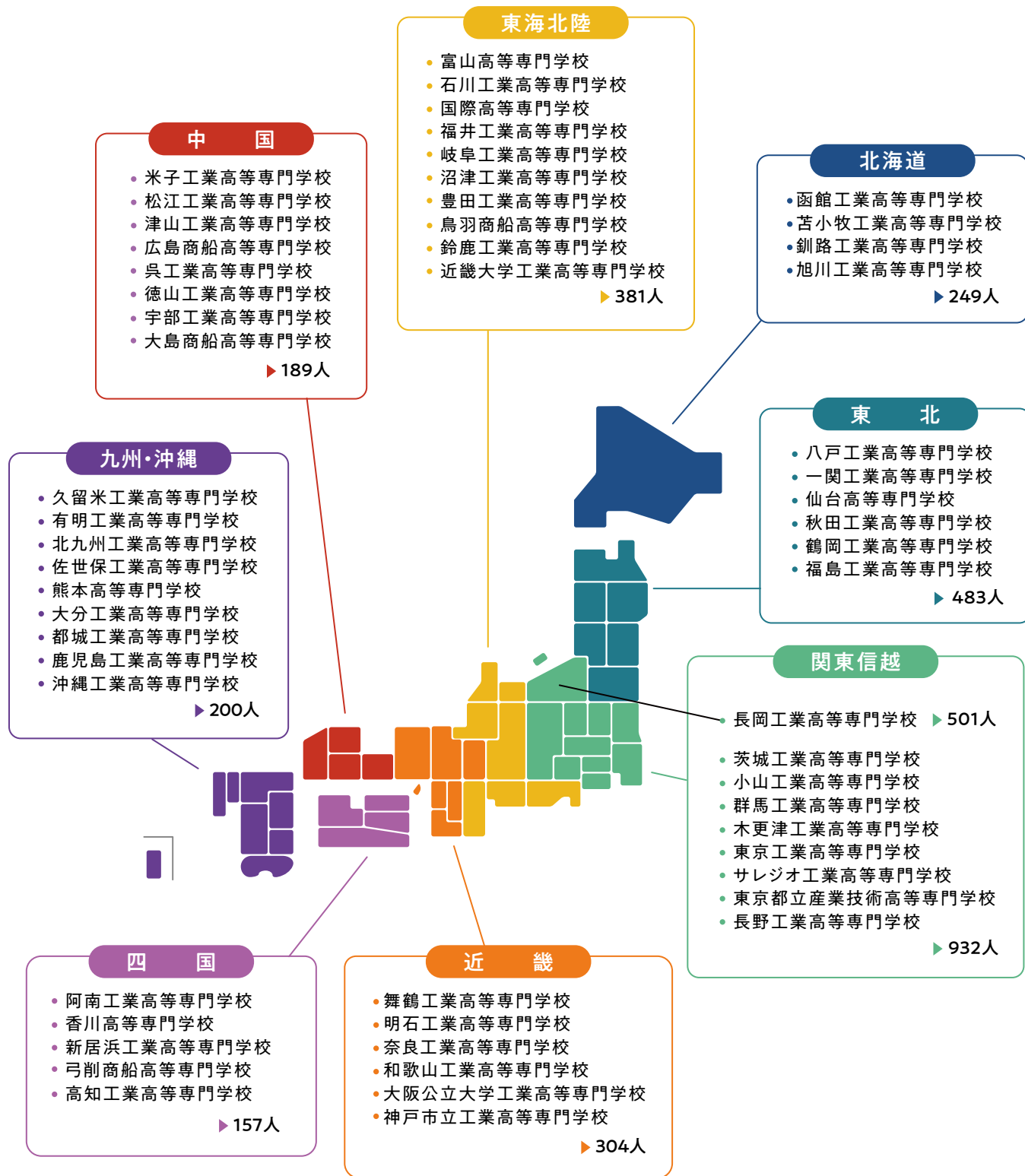


今年1月の実行委員会立ち上げより、多くの皆様からの心温まるご協賛と励ましのお言葉をいただき、無事にこの日を迎えることができました。本学が地域の皆様や関係者に温かく支えられていることを再認識する貴重な機会となりました。本企画にご協力・ご協賛をいただきました全ての皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

開学50周年記念花火実行委員会 一同

高専紀行と 技大への道

地域ごとの入学数 (過去10年間:2017~2026年度 学部3年入学 累計)



本学には、全国各地の高等専門学校(高専)から多くの学生が学部3年次に編入しています。地域や環境の異なる高専で学んだ学生たちが集い、それぞれの経験を活かしながら、新たな学びに挑戦しています。



Profile

量子・原子力統合工学分野
修士2年

渡部 翔

Watabe Kakeru

出身高専

福島工業高等専門学校

高専所在地: 福島県いわき市

太平洋沿岸にあるいわき市は、東北地方ですが雪がほとんど降らない温暖な街です。名物の「スパリゾートハワイアンズ」では、常夏のプールやウォータースライダー、迫力あるフラガールのショーを年中楽しめます。



高専時代の活動

高専2年から卒業研究とは別に、除去土壌の再生利用に関するプロジェクトに参加しました。福島第一原発の立地自治体である大熊町の住民との対話や専門家の方の講義を通して、除去土壌が抱える問題について学びました。



Profile

情報・経営システム工学分野
学部4年

松村 尚哉

Matsumura Naoya

出身高専

有明工業高等専門学校

高専所在地: 福岡県大牟田市

有明海に面し、かつて炭鉱の街として栄えた福岡と熊本の県境の街です。世界遺産の三池炭鉱や大蛇山まつりが有名で、名物の巨大お好み焼き「高専ダゴ」を、高専時代に友人や家族と囲んで食べたことが思い出です。



技大への道

高専での学びを基盤に、より専門的な研究に挑戦したく進学しました。海外派遣もある実務訓練制度も大きな魅力であり、この九月からスペインでの実務訓練に出発します。現地での貴重な経験が今から楽しみです。

次ページでは、高専出身の学生に、**高専時代の思い出**や**本学編入を志したきっかけ**などを語ってもらいました。

シリーズ「Technology Pioneer (テクノロジー・パイオニア)」では、本学の最先端研究を幅広く紹介します。

No.
71

電気電子情報系
准教授

日下 佳祐

高い信頼性を有するパワーエレクトロニクス回路の開発

Q パワーエレクトロニクスとは何ですか？

電気の形を変える技術です。直流を交流に変える、電圧を上げる・下げる、バッテリーを充電する、といった場面で使われています。電気自動車、鉄道、家電、データセンタなど、私たちの生活を支える多くの機器に用いられています。近年は、高効率であることに加えて、長期間安定して動作する高い信頼性も求められています。

Q なぜ「高い信頼性」が重要なのですか？

回路が故障すると、電気自動車が走行できなくなったり、工場の操業が停止したりします。故障原因の一つとして内部で発生する損失があります。損失とは、電気エネルギーの一部が熱として失われることです。この熱が大きくなると、半導体素子、磁気部品、ハンダなどの劣化や故障につながります。私達は、回路内の損失をリアルタイムに把握する技術について研究しています。

Q 損失をリアルタイムに測ると、どのようなことが可能になりますか？

故障診断が可能になります。たとえば、通常より半導体損失が増えている場合、半導体素子の劣化や冷却性能の低下が疑われます。また、鉄損や銅損の変化から、磁気部品の異常を推定できます。また、損失最小化も可能となります。パワーエレクトロニクス回路では、制御方式を変えることで損失の分布が変わります。リアルタイムに損失を見ながら制御を調整できれば、動作条件に応じて損失の小さい運転が可能になります。

このように、私たちは、回路内の損失をリアルタイムに把握する技術を通して、電力変換回路を「壊れにくく、長く使える」ものにし、電気自動車、再生可能エネルギー、産業機器などの信頼性向上への貢献を目指しています。

No.
72

システム安全系
准教授

眞砂 英樹

標準試験法の確立で拓く、水中ロボットが活躍する未来

Q 水中ロボットはどんなところで産業利用されているのですか？

1960～70年代頃から海底油田などで使われてきましたが、それらは1トンを超える大型のものでした。2010年代から水中ドローンと称される小型・安価なホビー機が出回り始め、徐々に点検や養殖漁業などに使われるようになりました。最近は初めから産業向けを企図した機体も増えています。

Q 水中ロボットの性能評価とは？

現場で求められるのは、意図したタスク/ミッションを確実に遂行できる能力ですが、工場等と違って変動要因の大きな水中作業の現場における性能は、カタログ値だけでは判断できません。また、メーカ独自のやり方で行なった試験結果では公平な比較は難しく、現場で必要となるロボットの実戦的な能力を測定・評価するための標準試験法の開発が重要と考えています。

Q 水中ロボットの難しさは？

濁りによる視界の悪さと、流れの中での位置・姿勢保持が代表的です。また水中ではGPSが使えないため、自己位置推定も大きな技術課題です。

Q 研究として目指すところは？

標準試験法は、ユーザがロボットを比較・選定しやすくなるだけでなく、メーカにとっても目指すべき開発指標が明確になるというメリットがあります。ドローン業界では中国のDJIと米国のSkydioがシェアの大半を占めますが、水中は運用環境や用途の多様性から目的特化型の機体開発という性格が強く、多くのメーカに参入機会があると見ています。標準試験法の開発を通じて、海洋立国日本を支える優れた水中ロボットが多く開発され、産業界で活躍する未来に貢献したいと考えています。



リアルタイム損失計測システムのプログラミング



リアルタイム損失計測システムの実機実験



学生の開発した水中ロボットの動作確認を、一緒に行なっている様子



現在開発中の「濁水中での水中ロボットのカメラ性能の評価試験法」について検討している様子

INFORMATION



国際会議「11th STI-Gigaku 2026」を開催します

長岡技術科学大学は、企業や自治体、教育研究機関のSDGsの解決につながる活動や、本学と高専との共同研究の成果を発表・共有する場となる国際会議「STI-Gigaku (International Conference on “Science of Technology Innovation”)」を2016年度より毎年開催しています。

今年度は、11月5日から6日に、本学を会場として開催いたします。6日には、高専の学生、教職員の希望者に対して、本学の研究室見学も予定しております。

本学は、技術科学分野における国際的な貢献や、SDGs達成への取り組みが評価され、国連アカデミックインパクトのSDGsゴール9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)のハブ副議長校(研究担当)に3期目(2025-2030)も選定されています。また、日本の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を目指す「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の採択25大学の一つに選ばれた本学は、「公立大・高専連携による技術科学コンセプトの拡張とソーシャルインパクト創出型SX研究大学の創成」を掲げ、高専との連携のもと、研究力強化と地域・社会へのさらなる貢献を推進しています。

「11th STI-Gigaku 2026」では、ビヨンドSDGsを見据え、未来を担う人材のネットワーキング構築と、研究を通じたソーシャルインパクトの創出を推進します。



10th STI-Gigaku 2025 集合写真



悠久太鼓愛好会つるかめ会活動報告 長岡まつりにて演奏させていただきました！

こんにちは。私たちは、悠久太鼓愛好会つるかめ会です。つるかめ会は、和太鼓をこよなく愛する団体としてその魅力を多くの方に知っていただくため、長岡市内を中心に各種イベントや老人ホームなどの施設を訪問し、演奏活動を行っています。今回は、悠久太鼓の社会人団体である「青悠会」さんをはじめ、多くの皆様とともに長岡まつりの「平和祭」と「わんぱくお祭り広場」に参加しました。長岡まつりへの出演は、私たちにとって毎年楽しみにしている大切な活動の一つです。平和祭では昨年度に引き続き、太鼓奏者100人が輪になって演奏する「百人太鼓」に参加しました。100人の太鼓が一斉に響き渡る迫力ある演奏となり、会場を大いに盛り上げることができました。その後の第五部では、つるかめ会総勢21名で、私たちのオリジナル曲「春の息吹」を披露しました。メンバー一人ひとりが息を合わせ、つるかめ会らしい演奏をお届けすることができました。また、「わんぱくお祭り広場」では、朝から私たちのオリジナル曲を4曲披露しました。多くの方々に演奏を楽しんでいただき、会場を盛り上げることができました。つるかめ会では、これからも一人ひとりが技術を磨き、心をつなげた演奏を届けていきたいです。そして、地域の皆様との交流を大切にしながら、和太鼓の魅力や楽しさを多くの方に伝えるために活動していきます。



平和祭 100人太鼓の様子



わんぱくお祭り広場の様子1



わんぱくお祭り広場の様子2



ロボコンプロジェクト 「NHK 学生ロボコン2026」でベスト8 および特別賞を受賞しました

私たちロボコンプロジェクトは、NHK学生ロボコンでの優勝と世界大会であるABUロボコンでの優勝を目指し、日々ロボット開発に励んでいます。今年度の競技テーマは「カンフークエスト」。手動操作ロボットと完全自動ロボットの2台が協力し、アイテムの組み立てや秘伝書の回収、ロボット同士の合体を行う難易度の高いルールでした。

ルール発表後、まずチーム全体で戦略を固め、機体ごとの機構を検討しました。特に苦勞したのがロボットの自動走行技術です。昨年度は手動ロボットのみ出場だったため、自動走行のノウハウがほとんど残っておらず、3D LiDARによる自動走行システムやカメラを用いた補正システムを開発する必要がありました。試作と検証を繰り返す中で、うまくいかない日々も多くありましたが、メンバー一人ひとりが、粘り強く課題に向き合い続けてくれました。

こうした積み重ねの結果、大会では全国ベスト8、そして鹿島建設特別賞をいただくことができました。世界大会出場には届きませんでしたが、これまでの努力が形になったと感じています。今年度は例年にも増して多くの企業様・関係者様にご支援いただき、また学内外のイベントにも積極的に参加してまいりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

代表としてこの一年間、メンバーとともに挑戦してきました。私たちの学生ロボコンは一度きりですが、その先にある世界大会出場という目標は、これからも変わらずロボコンプロジェクトが目指し続けるものです。今年得た技術や知見を必ず後輩たちへと受け継ぎ、来年度こそ世界大会出場という目標を実現してくれることを期待しています。

(文:ロボコンプロジェクト2026代表 五十嵐 幸多)



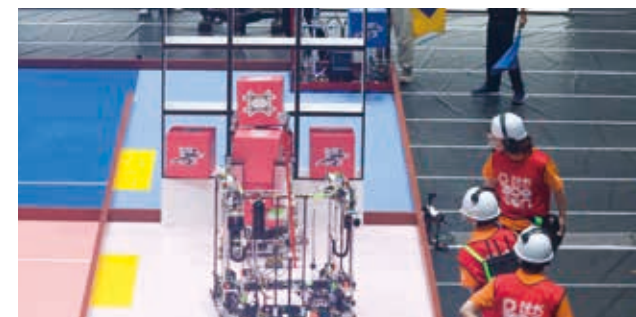
集合写真



大会中の様子1



大会中の様子2



大会中の様子3



チーム紹介ビデオの様子



ロボット一覧



独創を、発展へ

長岡技術科学大学 開学50周年

1976 → 2026

長岡技術科学大学は、開学50周年を迎えました。

長岡技術科学大学は実践的な技術の開発を主眼とした教育・研究を行う大学院に重点を置いた工学系大学として、昭和51年(1976年)に開学し、令和8年(2026年)10月に開学50周年を迎えました。大学のモットーであり、本誌の名称ともなっている「VOS」(V=Vitality、O=Originality、S=Services)の精神を肝に銘じ、本学の理念に沿って、私たちは“考え出す大学”をより一層深化させ、地域社会及びグローバル社会に不可欠な大学を目指し、邁進して参ります。

50周年記念事業について

以下の事業を実施するため、この度開学50周年記念事業基金を発起いたしました。

- 01 > SDGsに資する、イノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた、指導的技術者育成のための学生支援
- 02 > 学生、教職員、企業・自治体等が集う知的交流・地域交流・国際交流を推進する施設「イノベーションcommons」の整備

ぜひ多くの皆様からご賛同いただき、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

事業の詳細につきましては、
50周年記念事業特設サイト
よりご確認ください

<https://www.nagaokaut.ac.jp/j/50th/>

特設サイトには上記のQRコードを読み取りいただくか、
本学の公式ウェブサイトよりアクセスいただけます。



編集後記

今回の特集では、記念すべき開学50周年を、本学の広報誌「VOS」ならではの視点で振り返りました。50周年記念誌とは少し異なる切り口で、開学当初から本学を見つめてきた広報誌として、皆さんにも身近に感じていただける内容を心がけました。私も、着任前の本学の写真や資料に目を通しながら、その歩みの一端に触れる貴重な機会となりました。古い写真を眺めながら、時代とともに変わる大学の姿に思いを巡らせる時間は、とても新鮮でした。半世紀にわたる歴史の積み重ねを感じるとともに、この50周年を新たな節目として、本学がこれからもさらに発展していくことを願っています。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.239 [令和8年10月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (大学戦略課企画・広報室)
E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : <https://www.nagaokaut.ac.jp/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。